

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	アジア非感染性疾患 (NCD) 超克プロジェク ト	申請大学名	滋賀医科大学
申請大学長名	塩田 浩平		
プログラム責任者	堀池 喜八郎		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年 10 月に学内に設立されたアジア疫学研究センターを中心に、学内の組織的な体制は整っており、プログラムに従事する特任教員や事務職員などの雇用も着実に進められている。 これまで学内で蓄積されてきた海外協力施設、海外提携校とのネットワークを生かし、本プログラムとの連携を着実に進めることで、今後の留学生の受入や学生に対する講義の実施、海外研究機関短期研修やアジア・フィールドワークの実施に向けた準備を行っている。 当初予定していた平成 27 年度からの学生受入を、平成 26 年 10 月からの学生受け入れを開始するようスケジュールを見直し、ホームページの立ち上げや国内外関連機関に対する広報、また大学院生室の整備やカリキュラムの整備などを実施している点は評価できる。 しかし、平成 26 年 10 月入学に対する学生の出願状況は海外協定校からの応募のみとなっていることから、国内の学生に対する広報活動が十分行われたか、また魅力的なカリキュラムとなっているかには疑問が残る。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムの運営及び実施に際しては、学長を中心とし全学的な支援体制のもとで臨んでもらいたい。プログラムコーディネーターが熱意を持って目指すグローバルリーダーの育成を、プログラム担当者が緊密に連携し取り組むことが期待される。 多くの学生を国内外から集めるために、本プログラムが育成するリーダー像をより一層明確にし、カリキュラムを具体的且つ魅力的なものとする必要がある。滋賀医科大学が強みとする疫学分野において、リーディングプログラムが掲げる、広く産学官でグローバルに活躍するリーダーを輩出するためのカリキュラムの充実及び具体化を早急に進めることが望まれる。 海外のプログラム担当者や客員教員については、カリキュラムを支える重要な構成要素となるよう、その参画方法について十分検討されたい。 本プログラムに参画する学生として、医師免許を有しない学生や疫学分野に十分に精通していない学生の参画も想定されることから、彼らが本プログラムで学ぶことで、NCD 対策を牽引するリーダーとして活躍できるようなカリキュラム作りを期待したい。 海外研究機関短期研修やアジア・フィールドワーク、健康関連産業等研修などが計画されているが、単にある一定の期間滞在するだけではなく、プログラムが育成するリーダー像に沿った場で経験を積み、将来のキャリアパスに繋がるような、実のあるものとなることを期待したい。 日本人学生、留学生に対する日常生活や研究、キャリアパスといった面での支援体制に具体性を欠いていたことから、今後どのような支援体制を構築していくか、注視していきたい。 			